

2023年11月00日発行



生活工房だより

発行 社会福祉法人 生活工房

神奈川県川崎市多摩区南生田2-16-14 桜の杜301
TEL 044-948-6341 FAX 044-948-6342

2023年

秋号

NO.43

法人設立9年目を迎えるにあたり

今年の記録的な猛暑もすっかり忘れるくらいに肌寒い季節となってきました。これから年末に向けて何かと慌ただしくなりますが、秋のひっそりとした気配は夏の間に高揚した気持ちを落ち着かせるのにふさわしい時季であるとも言えます。

新型コロナウイルスが感染症法上5類移行となり、この数年規制の多かった生活も徐々にコロナ禍前へと戻りつつあります。さつきグループでは長い間見送りさせていただいていたホーム旅行も今年度より再開いたしました。5月の大阪旅行、9月は東京ドームと甲子園での野球観戦、京都旅行等、ご利用者様のご希望に沿ったプランが組まれているようです。

わーくはうす・ひこばえでは、10月から11月にかけての各所地域バザーへの出店で賑わいを見せています。

法人では今年度の重点的取組みとして、BCP作成委員会、感染症対策委員会を設置いたしました。来るべき自然災害または新たな感染症流行に備えて、組織的に万全の体制を整えることができるよう準備を進めています。またリスクマネジメント委員会も新たに設置いたしました。事業所を運営していく上では様々な事故が発生するリスクも孕んでいます。リスクマネジメントでは事故を「0」にする発想ではなく、「起こり得るもの」として捉えていく視点を持つことが重要です。この視点で日々の業務を見直していくことが、サービスの質の向上へと繋がります。委員会では事故報告、ヒヤリハット報告を分析し、サービス改善に取り組んでいます。

また法人の長年の願いでありました稲城市での事業計画も実現に向けて動き出しました。今年に入り、地域の皆様への事業説明会を開催し、現在は東京都との開設協議を進めています。

間もなく生活工房も社会福祉法人設立9年目を迎えます。9年前には予想だにできなかったことが社会では起こっていますが、どのような環境変化が起こっても変化に対応していくことができる柔軟で強い組織を目指して今後とも精進して参ります。

引き続き、皆様のご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

(理事長 野田卓明)



みんなで作りあげたお店です!

2023年6月17日(土)「しんゆりフェスティバル・マルシェ」に、ひこばえ農業部と工芸部で初出店しました。にんじん、玉ねぎ、じゃが芋、なす、ピーマン、にら、ニンニク、春菊、ミックスレタス、キュウリを販売しました。

前日に、収穫をして袋詰めを手分けして販売班とお手伝いで準備をしました。じゃが芋は、種類ごとに袋詰め(きたあかり、男爵、メークイン、インカのめざめ)を行い、玉ねぎは、畑に干してある在庫を下して袋詰めです。天候が不順な季節ですが、天気にも恵まれ収穫から出店まで出来ました。

準備の段階で農業部内では『何やら楽しそうな事が始まるらしい』空気が漂っていました。職員が初めて作った、商品名のポップと野菜イラストシール。イラストシールの野菜は、利用者様の一人が絵にしてくれて、とても上手に本人の見た目と相違してかわいく出来上がりました。

いよいよマルシェ当日、やはりいつもと違う活



動にトイレのスリッパで玄関まで行ってしまう人がいました(後で職員だった事が判明)。三班に分かれて1時間位ずつお店のお手伝いと見学に行きました。いつも多弁な利用者様が呼び込みの声が意外と小さく、人の多い場所は苦手と職員とお店見学に変更して楽しんだり、普段からの大きな声を生かしお店の中から「いらっしやい無農薬野菜はいかがですか!」と八百屋さんのおじさん風に呼び込みを行っておりました。お隣の工芸部さんが売れて大喜びで「すごい沢山売れたよ」と興奮して帰ってきた利用者様もいらっしやいました。

になる売上高は、初めてにしては、、まずまずでした。ひこばえ農業部利用者様10人+職員+工芸部の皆で作りにあげたお店となりました。

マルシェが終わって2日後いつも通り畑に収穫に出てみると巨大キュウリが沢山採れて枝豆も収穫出来るくらいに育っていて、後2、3日早く成長していたらキュウリを目玉商品として安く販売してお客さんを呼び込めたのに…。今年も枝豆が甘く美味しく収穫する事が出来ました。

(わーくはうす・ひこばえ農業部 春原純子)



ひこばえパン屋、12年目を迎えました。

ひこばえパン屋は今年で12年、干支を一周という節目を迎えました。5月13日(土)には、ささやかなながら「ひこばえパン屋12周年祭」を開催。たくさんのお客様に足を運んでいただきました。

周年祭を開催するにあたり、3月下旬くらいから準備をスタートします。限定パンのメニュー決め、ポップの作成、具材の試作、などを利用者様と共にやります。利用者様も作業をされながら「周年祭ではどんなパンを出すんですか?」とワクワクしながら質問をされます。そう、利用者様も毎年の周年祭を楽しみにされています。地域のお客様への感謝の気持ちを込めての周年祭ですが、同時に利用者様のひこばえパン屋で作業をする喜びや誇りを持っていただけているようにお見受けしております。

もちろんこれは特別な日である周年祭効果です。毎日決して特別な日ばかりではありません。日によっては浮き沈みもございます。雨が

降って気分がのらない日、晴れて嬉しいけど嬉し過ぎて作業に手がつかない日、黙々と作業に集中出来る日……。

そんな色々な日々が重なり合って、少しずつ一年を経て行きます。それは利用者様だけではありません。私たちひこばえパン屋の職員もそうです。利用者様と日々向き合いながら、利用者様から様々なことを学ばさせていただいております。地道に進みながら、今年も無事一年の節目を迎えさせていただきました。本当にありがとうございます。

地域のお客様の皆様、一緒に働く利用者様の皆様にこの場を借りて御礼を申し上げます。

そしてまた13年へと向かって、日々努力をしていきたいと思えます。

(わーくはうす・ひこばえパン部 寺島慎吾)





5月イベント(カラオケ)、大阪方旅行

新型コロナウイルスの影響により、毎年恒例行事だったもちつき会、旅行、お楽しみ会の開催を控えざるを得ない中、今年5月に政府より行動制限の緩和の発表をうけ、さつきグループでは各感染予防対策を行い、利用者様の体調を考慮しながらまずは小規模でイベントを開催することになりました。

先ず、イベント第一弾として5月3日、4日のGWを利用して、松の杜別館会議室にてカラオケ大会を開催いたしました。2～4名の少人数グループを3つ作り、2日間に分け、任天堂switchを利用してカラオケを楽しみました。1日目は女子グループ、2日目は男子グループがカラオケを楽しまれ、1人3曲歌われました。曲に合わせて各自ダンスを披露するなど普段の生活ではなかなか見られない笑顔が見られました。カラオケの合間には、職員特製くまちゃんドリンク(ジュースの上にアイスに乗せました)を堪能されました。カラオケイベント後は各利用者様の体調に変化が見受けられず、今回の感染対策を参考にしながら徐々に利用者様のニーズに合わせたイベントを開催できるように、今後も計画立案をしていきたいと思えます。

次にホーム旅行第一弾として、女性利用者3名、女性職員3名で、5月25～26日の日程で大阪USJに行きました。1日目は主にUSJ内で過ごし、お土産や乗り物を堪能。今回の旅行のメインとなる『スーパー・ニンテンドー・ワールド』に行きました。USJ内にあるとは思えないぐらい、マリオの世界が表現され、利用者様職員一同マリオの世界に釘付けになりました。マリオ、ルイージと一緒に写真を撮ったり、『スーパー・ニンテンドー・ワールド』でしか買えないお土産を購入したりと、各自楽しんでいる様子が伺えました。USJではキャラクターと一緒に写真を撮ることもでき、利用者様の笑顔溢れるたくさんの写真を撮



ることができました。USJ内を1周した後、夕食はUSJの外にあるハードロックカフェでアメリカン料理を堪能。いつも以上に食べましたが、皆様体調不良なくUSJから徒歩3分のところにあるホテルに1泊をしました。

2日目は、ホテルからすぐの所にあるシティーウォークという商業施設で各自、大阪土産を購入。購入後は新大阪で駅弁を購入して新幹線内で昼食を食べ、各自ホームへ帰館。旅行後の体調

不良はなく、皆様から「楽しかった」とのお言葉を頂きました。

約3年ぶりとなる、泊りの旅行でしたが普段とは違うたくさんの笑顔を見ることができ、イベント推進委員として、利用者様のニーズを元に計画立案をして本当によかったと思える瞬間であったと思います。今後も、多くの利用者様のニーズに応えられる努力をして参ります。

(イベント推進委員会 伴依莉沙)



神奈川県意思決定支援 ガイドライン研修を 受講して

「どんな人にも意思表示の力がある」。言葉をうまく話せない人、話せる人にも意思がある。夢や希望を汲み取ることができるかどうかは、聞き手の力量にかかっていると言っても過言ではない。利用者の意思を引き出すためには、信頼関係、聞く姿勢が重要と言える。そのためには、利用者の話を真摯に聞き、利用者の表情、声のトーンから察する力も必要となってくる。普段の生活パターン、定期的な面談アセスメントが利用者のストレスや、希望を知るチャンスとなる。面談、アセスメントをしていく中で一番重要となるのが「本人らしい、らしさ」を知ることと考える。法人の理念にあるように「その人らしい地域での生活と、その人らしい自己実現を支援する」は意思決定支援とリンクする。その中で人が生きることの

感受性を高めていくことが支援者の使命の1つと言えるだろう。

意思決定支援をしていく中で、その人の「選好を知る」「自己効力感」の重要性を伝えたい。まず、「選好を知る」とはどういうことか。その人がどうやって好きなものを選ぶかを知ることである。次に「自己効力感」とは、自信や確信のことで自らの意思で、主体的に決めることである。

意思決定支援における私たちの仕事は、何かを提供するべきではなく、本人が何を言いたいのか、何を望んでいるかを聞くこと、知ることである。私たち支援者は、利用者の自己効力感を高めてもらい、自己選択と管理(チョイス&コントロール)が高まるようにすることであると考える。

意思決定は誰にでもある。思いを伝えること、伝えてもいいんだと利用者にとってもらう支援を心掛け、利用者のその人らしい豊かな暮らしの実現のため、利用者の思いに寄り添える支援者になることを目標に日々支援に携わっていければと今回の研修を通して改めて自分の目標設定ができた。

(さつきグループ 伴依莉沙)

実習指導



9月より、社会福祉士養成施設に通う学生の
実習指導をわーくはうす・ひこばえで行っていま
す。

これまでもさつきグループで実習生の受け入
れを数年行っていたのですが、ちょうどコロナの
流行の最中で、「実習生が事業所へ来ることはな
く」「実習指導者とのzoomでのやりとり」「レポー
トの提出」という本来の実習指導とは違う特殊な
内容でした。こういった内容であるのでお引き受
けできた、という事情もあります。以前より実習
指導のご依頼は頂いていたのですが、グループ
ホームは朝と夜が業務の中心ですし、生活の場
に不特定の方を出入りさせるのは現状ではなか
なかハードルが高いと感じており、お断りしてい
ました。

わーくはうす・ひこばえについては日中の活
動なので時間帯としては受け入れやすい面はあ
るものの、今までは社会福祉士の資格を持つもの
がいなかったため検討していませんでした。

コロナの扱いが5類となったのちに改めて養
成施設から本来の形での実習指導の依頼を受け、
本来の実習生指導に挑戦してみようと考えお招
きすることになりました。

実習先をひこばえとしたのは、現状ではさつき
グループと比べると時間的な面で受け入れやす
いという点や、昨年に複数のひこばえ職員が社会
福祉士資格を取得したことも要因の一つです。ま
た、就労継続支援事業とグループホームを比較
したときに、グループホームのほうがより「ケア
ワーク」の要素が強く、「ソーシャルワーク」の専
門家である社会福祉士養成の実習場所となると
現状ではひこばえのほうが本来の実習プログラ
ムに沿ったものが提供できるのでは、と考えまし
た。

実習生をお迎えし指導する、ということは現場
職員や法人にとってどういった影響や意義があ
るのでしょうか。実習指導に携わる職員にとっ
ては通常業務を行いながらの実習指導ですので負
担増になるわけですが、自身の成長に繋がる仕事
でもあります。教える機会を持つことは一番の勉
強であるというのはよく言われることですし、そ
の相手が同僚や部下ではなく外部の方というこ
とになるとまた違った責任が発生することにな

り、長い目で見ればやはりプラスになる経験となるはず。そしてそれは事業所や法人にとっても当然有益なことです。



法人にとっては「地域における公益的取り組み」の実践の一つと言えます。これは社会福祉法に規定があり、社会福祉法人の任務の一つとして求められているものです。因みに、社会福祉法人が行政機関へ提出する届出書の一つに現況報告書というものがあり、それには地域における公益的取り組みを行っているかどうか、どういった取り組みを行っているかを記載する欄があります。実習生の受け入れはこのなかの「地域住民に対する福祉教育」という範疇に入るものです。



福祉業界に限らず専門的な知識や技術が要求される世界では、勉強中の人間を実際の現場に立たせて研鑽を積ませる、という過程が必須になっていることが多いと思います。また、他の社会福祉法人での実習受け入れに関する状況をお伺いすると、一年中実習生がいるといった事業所もありました。



こういった活動を続けることで、言わずもがなではありますが生活工房のご利用者の益にもなると考えますし、ひいては日本全体の福祉向上にもつながるといふくらいの大風呂敷は広げていたいと思います。

(副理事長 春田耕作)

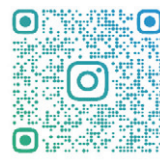
ホームページが
新しくなりました!

社会福祉法人 生活工房
ホームページ



Instagram
始めました!

生活工房
instagram



SEIKATSUKOBO_SH



ひこばえパン屋
facebook



シュトーレンのご予約承ります!

今年もひこばえパン屋ではシュトーレンを販売致します。シュトーレンはドイツやオランダで伝統的にクリスマスの時季に食べられる菓子パンです。ひこばえパン屋では自家製のラムレーズン、オレンジピール、レモンピール、くるみをたっぷり入れた生地、自家製マジパンを包んで成形しています。焼成後、砂糖でコーティングし、1週間寝かせてからお客様にお渡ししています。シュトーレンは寝かせれば寝かせる程に味が熟成して行きます。お買い求めてから少し時間を置いて召し上がっていただくと、またその味わいはより一層深くなるでしょう(賞味期限は1ヶ月です)。

ドイツではクリスマスの4週間前から毎日薄く

スライスして食べていく習慣があるそうです。クリスマスが近づいてくることを楽しみにしながら、そしてクリスマスの日に、ひこばえパン屋のシュトーレンの味をお楽しみいただけたら幸いです。

生活工房だより特典

●シュトーレン
1本 2,000円 ⇒ 1,800円

生活工房だより特典

1/2本 1,000円 ⇒ 900円
※11月中にご予約いただいた方限定で10% OFF
させていただきます!

●ご予約期間
2023年11月22日(水)～予定数に達し次第終了

●お受け取り期間
2023年12月1日(金)～12月23日(土)
※日・月・祝はお休みです。
※火曜日はご予約とご予約のお受け取りのみで店頭販売はありません。

●ご予約方法
お電話(044-455-5372)又はFAX(044-455-5373)にて承ります。

FAXでご注文の方は、お名前、お電話番号、ご注文個数をお知らせください。



あさおのおみせ

ひこばえ工芸部の製品を、「あさおのおみせ」でお取り扱いいただいております。

お近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。



あさおのおみせ

- 所在地 川崎市麻生区
万福寺1丁目5番1号
麻生区役所 4階
- 営業時間 9時30分～12時30分
(火曜日・木曜日・金曜日)
- あさおのおみせのなかまたち
川崎市柿生学園様、がであん・らら様、
くりの丘様、しんゆり様、ソレイユ川崎様、
つつじ工房様、つばき寮様